



秋はタカの渡りの季節。多くの方が、あちこちにタカの渡りを観察に行きます。渡っていくタカの個体数のカウントが行われている場所も各地にあります。タカの渡りを見ていると、ヒヨドリの群れが渡っていくのも目にします(図1)。しかし、なぜかヒヨドリの渡りは、タカと違ってあまり注目されず、数を数えてもらえません。そこで、今回は無視されがちなヒヨドリに注目してみます。テーマはヒヨドリの渡りの謎です。



図1：渡りのヒヨドリの群れ(納家 仁)

●どこの個体が渡ってる？

ヒヨドリは、日本、台湾、そして韓国やフィリピンの一部と、日本周辺にのみ分布する鳥です。にも関わらず、我々は、渡っていくヒヨドリの群れをしばしば目にします。いったい、どこのヒヨドリが渡ってるのでしょうか？従来は、北海道や東北のヒヨドリが南西日本に渡っていると考えられていました。しかし近年は、北海道で越冬するヒヨドリも珍しくありません。同じ地域にいるヒヨドリでも、渡り個体と渡らない個体がいるようです。どんな個体が渡り、どんな個体が渡らないかは分かっていません。

話はさらに複雑です。山口(2009)は、2004年と2005年に、日本各地のヒヨドリの渡りに関する情報を集め解析しました。そして、渡りが最初に確認された時期や、渡りのピークの時期が、北海道や東北よりも関西や中国地方で早いという傾向を見いだしています。もし北海道や東北のヒヨドリだけが渡ってるなら、こんなパターンは生じません。関西や中国地方にも、渡りをするヒヨドリがいるようなのです。

図2に、大阪のヒヨドリの個体数の季節変化を示しました。これを見ると、渡ってきたヒヨドリが10月頃に加わって個体数が増え、5月までには再び個体数は元に戻るようです。少数例ですが個体識別をした観察によって、長居公園で繁殖しているヒヨドリは、冬も長居公園に滞在していることが確認できています。大阪のヒヨドリが南に渡っていくことがあるのなら、どんな個体が渡るのか、とても気になります。

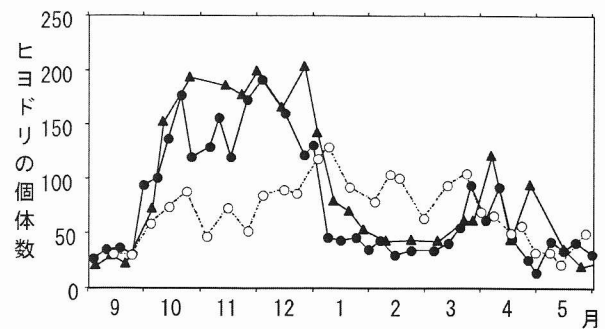


図2：長居公園(大阪市東住吉区)における秋～冬のヒヨドリ個体数の季節変化。●：1994年度、○：1995年度、▲：1996年度。

●ヒヨドリの渡り個体数の調査

みんなタカの渡りは数えるけど、ヒヨドリの渡りは数えない。と書きましたが、少ないながらも渡っていくヒヨドリの個体数を数えた研究があります。

中村(2009)は、齋藤源三郎が1934年～1942年の秋に千葉県の実家庭で記録したヒヨドリの渡りを解析しました。濱田ほか(2009)は、2005年春に滋賀県草津市の琵琶湖岸でヒヨドリの渡りを調べました。どちらも、タカの渡り調査と似た調査方法です。どちらも1ヶ所だけでの観察なので分かることは限られますが、ヒヨドリの渡りは午前中で、天気が悪い日はほとんど渡らないといった結果が見いだされています。

再び図2を見ると、秋にどのくらいヒヨドリが増えるかは、年によって違うことが分かります。この違いが、北から渡ってきたヒヨドリの個体数の違いによるのか、たとえば山の上から下りてくるヒヨドリ個体数の影響なのか、ずっと気になっています。東日本のいくつかの地点で、渡っていくヒヨドリの総数の年変動が分かれば、この疑問に答えが出せます。誰か調べてくれないかな？と思ってすでに10年以上経ちました。

●野外で実際に観察してみよう

ある地点を通過するヒヨドリ総数を調べるには、午前中だけでも毎日(雨の日は休めます)調べる必要があります。それを何年か続けるとなると、とても大変です。でも、いつ頃から渡りが始まるか、いつ頃たくさんのヒヨドリが渡っていくかなら、もう少し断片的な観察でも分かりそうです。とりあえず、この秋、上空を渡っていくヒヨドリに注意を払ってみませんか？

●引用文献

- 中村和雄(2008) 関東地方における秋期のヒヨドリの渡り—齋藤(1953-1943)の観察記録の解析。山階鳥類学雑誌, 39(2): 69-86.
 濱田知宏・近雅博・野間直彦(2009) 滋賀県彦根市の琵琶湖岸におけるヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis* の春の渡りと気象条件との関係。山階鳥類学雑誌, 41(1): 3-17.
 山口恭弘(2008) 秋季におけるヒヨドリの渡り全国調査で分かったこと。フェノロジー研究, (43): 9-12.

和田 岳(わだ たけし): 本会幹事、大阪市立自然史博物館学芸員。HP「和田の鳥小屋」
<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/wada/wada-index.html>